

特集

# 教えて！岩船沖洋上風力発電



海の上に風車を建てて発電する「洋上風力発電」。風資源に恵まれ遠浅な岩船沖は、洋上風力発電導入の可能性が高く評価されています。

洋上風力発電の実現は、地球温暖化対策や地域経済への効果が期待されることから、市では、地域をはじめ市民みなさんの理解と協力のもと、岩船沖洋上風力発電の導入を推進していきます。

## 洋上風力発電って何？

洋上風力発電とは、海洋上における風力発電のことです。

洋上風力発電は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量が少なく、陸上よりも大きな電力を生むことができることから、新たな発電事業として脚光を浴びています。

洋上風力発電には、風車を海底に埋め込む「着床式」と、海に浮かせる「浮体式」の2種類あり、岩船沖は遠浅なことから「着床式」が適しています。



着床式洋上風力発電のイメージ図

## どんな事業なの？

岩船沖洋上風力発電は、岩船の沖合約2キロメートル先、水深10メートルから35メートルまで、荒川から三面川までの約2700ヘクタールの海域に、着床式の風車を数十基設置するもので、20万キロワット以上の大規模な洋上風力発電を想定しています。

この規模は一般家庭の約15万世帯以上の年間消費電力に相当するもので、このような海域での大規模な洋上風力発電としては、国内で初めてとなります。



岩船沖洋上風力発電の対象海域想定図

## これまでの経過は？

### 研究会の設置

この事業は、平成25年6月に名古屋大学ら研究機関が、岩船沖における大規模な洋上風力発電構想を、本市に提案したことがきっかけで始まりまし。

平成26年4月には、漁業関係者をはじめ地域の関係者や学識経験者らで「岩船沖洋上風力発電に関する研究会」を設置し、岩船沖洋上風力発電導入の可能性を検討してきました。

8月には研究結果が報告され、6項目の配慮すべき事項を付し「岩船沖における洋上風力発電事業の実現の可能性は高く、事業の導入を積極的に推進していくべき」と結論づけられました。



研究会の様子

### 講演会や課外授業

洋上風力を地域住民や市民のみなさんに知ってもらおうと、これまで講演会を開催してきました。名古屋大学の安田教授を講師に招き、平成26年6月から7月にかけて、岩船沖の近隣地域でそれぞれ地域講演会を開催したほか、9月には教育情報センターで市民講演会を開催しました。

また9月に岩船沖の近隣小学校3校で課外授業を行い、洋上風力の知識を深めてもらいました。



地域講演会の様子



小学校課外授業の様子

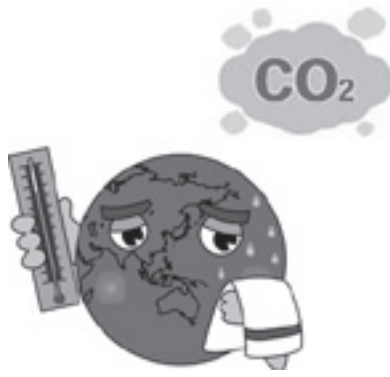
### 推進委員会を設立

研究会の結論や、市議会で「岩船沖洋上風力発電事業の導入推進に関する決議」がされたことを受け、市では、岩船沖洋上風力発電の導入を推進することを目的に「村上市岩船沖洋上風力発電推進委員会」を平成26年11月に設立しました。推進委員会は市の条例で定めた機関で、発電事業者の評価選定や、計画に関する協議調整などを行うこととなります。

## 期待されることは？

### 地球温暖化対策に有効

地球温暖化が進んでいる現在、再生可能エネルギーの促進は、日本だけでなく世界規模で取り組んでいかなければなりません。この洋上風力発電は、地球温暖化対策に極めて有効な発電であり、他の地域の模範となるものです。



### 地域にもたらす経済効果

洋上風力発電が実現すれば、大勢の就労者が必要となります。地域の雇用が図られることはもちろん、市外からも大勢の就労者が入ってくることで消費が拡大することが期待できます。

また風車の並び景観を観光資源に活かすことで、集客効果や知名度が高まり、観光はもとより市のイメージアップにも

大きく寄与するものと考えます。

これら地域にもたらされる経済効果は、市の行政運営にも多大な効果をもたらすことから、本市活性化の起爆剤として期待されます。



## 心配されることは？

洋上風力発電ができることで、いくつかに心配されることがあります。

ここでは、研究会で報告された6項目の配慮すべき事項を紹介します。

### 地域住民の生活環境に対する配慮

洋上風力発電の風車から発せられる低周波音や振動などが、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼす可能性があることを考え、影響の可否について十分調査することも、関係住民の意見等を十分に踏まえ、地域住民の日常生活環境に対する配慮が必要です。



### 景観との調和

洋上風力発電の整備計画策定にあたっては、地域固有の里地里山の風景や美しい景観と調和するように配慮が必要です。また、風車の景観が観光資源として活かされるようデザインについても配慮が必要です。

### 洋上風力で地域活性化



名古屋大学  
安田公昭 教授

洋上風力発電事業は、大きな取り組みであり、いろいろな影響を地域に与えると考えられます。中でも注目されるのが、「仕事が増えること」、「人口が増えること」、そして「地域が盛り上がること」の3つです。

洋上風力発電には、製造、組立、整備、運営などの直接的なことのほか、それらを間接的にサポートすることなど、多くの仕事が必要となります。また地域に仕事が増えるとなれば、人口が増えることも予想されます。たくさんの方が生活するようになれば、衣食住などさまざまな需要が生まれ、その需要に応えるサービスも必要となります。これら仕事、人口、消費が増加することにより、地域を盛り上げる可能性が大いに期待できます。

村上市は、北前船の交易により商港、漁港として栄えた港町としての歴史もあります。洋上風力発電事業の実現で、かつて北前船で賑わった時代がよみがえり、この地域が大いに活性化すればと期待しています。

## 自然環境の保全との調和

洋上風力発電が周辺の野生動植物や自然環境に影響を及ぼす可能性があることを考え、自然環境に与える影響を十分調査し、自然環境の保全との調和に配慮する必要があります。

また海岸浸食への影響や、三面川と荒川を遡上する鮭、マス、アユへの影響については特に配慮が必要です。



## 漁業関係者および岩船港利用者との調整

風車の設置場所を決めるときは、漁業関係者をはじめ粟島汽船や貨物船などの岩船港利用者に支障を及ぼさないよう調整が必要です。



## 地元との情報・意見の共有

地域合意のもと事業を進めるにあたっては、地域社会との良好な関係を構築していく必要があります。説明会などを開催し、地元への適切な情報共有を行うことが必要です。

## 地域の発展に資する取組の検討

洋上風力発電により地域の発展を最大限にもたらすために、発電事業者と地域関係者および行政とが連携し、地域の発展に資する取り組みを検討していく必要があります。



## これからの予定は？

### 発電事業予定者の選定

平成26年11月から12月にかけて、岩船洋上風力発電に意欲のある事業者から企画提案書の募集を行いました。

複数の事業者から応募があり、現在、評価選定作業を行っています。今月中に推進委員会で発電事業予定者が決定される予定です。

### 環境アセスメント

特定の開発事業を行うとき、建設前にはあらかじめ「環境アセスメント」を行うことが法律で義務付けられています。環境アセスメントとは、環境にどのような影響を及ぼすかを調査・予測・評価を行い、その結果を公表して多くの人から意見を聞き、より良い事業計画を作り上げていく制度です。

洋上風力発電事業の環境アセスメントは、発電事業者自らが行うこととなります。



## 工事の時期

環境アセスメントに要する期間は約3年といわれています。そのあと許認可などの手続きを経て工事に入りますので、工事開始は早くても平成31年以降になると思われます。また、建設する規模にもよりますが、工事開始から2、3年で完了し運転開始すると思われます。



## 市の役割

この事業は、民間事業者が自己資金で整備することを前提としています。市は地域関係者と事業者間の調整を行うなど、主に側面的な支援を行っていきます。

今後は事業の計画や進展状況など、説明会や市報などを通してみなさんにお知らせしていく予定です。

### ●問い合わせ

環境課新エネルギー推進室  
☎ 53・2111 (内線275)